

上賀茂試験地自然観察会応募状況について

上賀茂試験地 伊藤雅敏

1. はじめに

上賀茂試験地では、2000 年秋より一般の方を対象とした自然観察会を春と秋の年 2 回開催しており、2011 年で 12 年目となった。今回の報告では、2011 年春の観察会で行った広報の方法、応募状況、及び参加者アンケートの結果をもとに、今後の観察会についての課題について考える。

2. 募集内容および広報方法

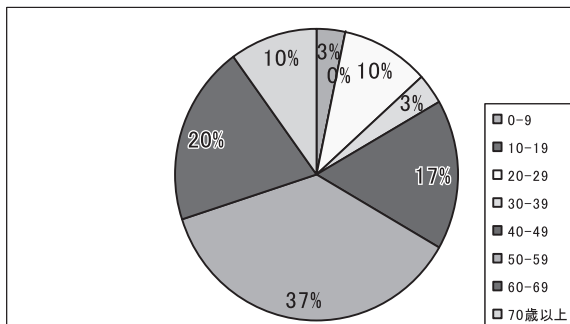
募集内容は以下に示すとおりである。

①募集期間：3 月 10 日～4 月 8 日②募集人数：30 名（応募者多数の場合は抽選）③参加費：50 円（イベント保険料）④募集対象者：一般（小学生以下は保護者同伴）⑤申込み方法：往復はがき・メールに必要事項を記入、5 名までの複数申込みが可能。

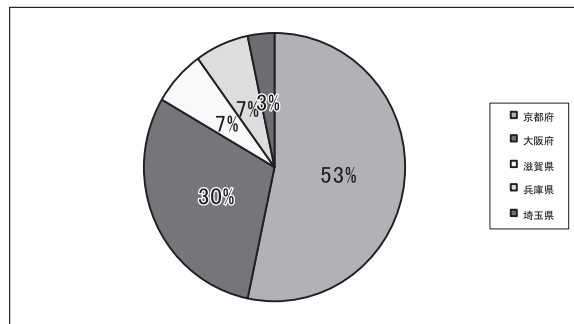
広報の方法及び開始時期は、3 月 10 日に上賀茂試験地のホームページ掲載、3 月 16 日に京都大学と株式会社 CS センターホームページに掲載し、教育関係機関へチラシ配布を行った。

3. 参加者動向

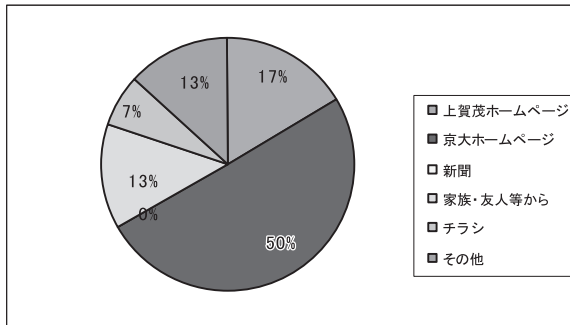
参加者総数は 30 名であった。その内 50 代 11 名が最も多く、次に 60 代 6 名、40 代 5 名、とシニア世代が中心であった。都道府県別の集計では、京都府が 16 名と最も多く、次に大阪府 9 名、滋賀県と兵庫県がともに 2 名で、近畿以外からは埼玉県から 1 名であった。京都府の中でも京都市が 14 名と多く、宇治市と城陽市がともに 1 名ずつであった。どのようにして観察会を知ったかについては、京大ホームページが 15 名と最も多く、次に上賀茂ホームページ 5 名、家族友人等から、その他がともに 4 名、チラシが 2 名であった。過去に同様の観察会への参加経験については、経験が無い 19 名で経験有りが 8 名であった。過去 1 年間に山や森林へ出かけた回数については、4～11 回が 11 名（38%）と最も多く、次いで 1～3 回が 7 名（24%）であった。



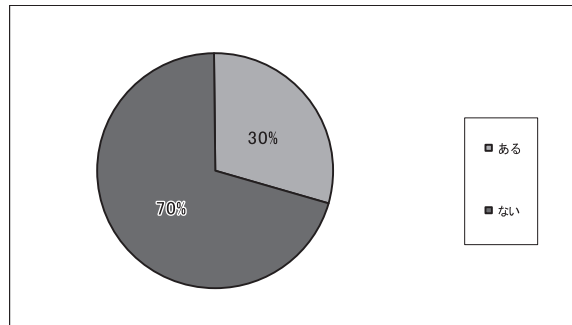
図－1 年齢構成



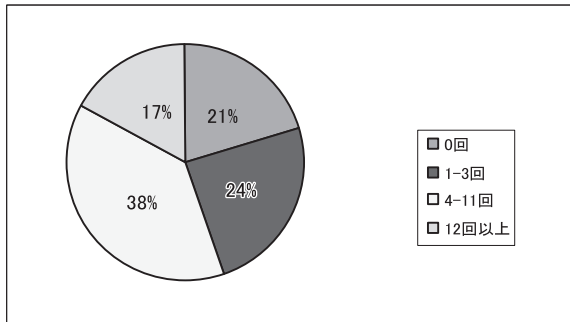
図－2 地域構成



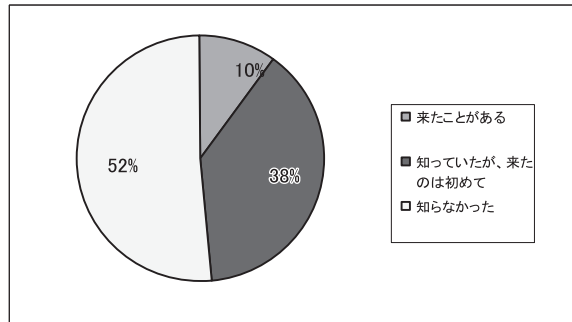
図－3 どこで知ったか



図－4 同様の観察会への参加の有無



図－5 過去1年間に山や森林に出かけた回数



図－6 上賀茂試験地の認知度

4. まとめ

今回のアンケート結果から、自然に興味はあるが、観察会等へ参加経験があまり無い参加者が、京都大学のホームページから、春の自然観察会に興味を持ち、応募してきたものと推察される。

まず、「どこで知ったか？」という質問に対して、参加者の半数の15名が京大ホームページと回答しており、京都大学のホームページを見ていて、偶然イベント案内等で興味を持ってもらったものと思われる。「同様の観察会等への参加経験の有無」について、無いと回答した参加者が28名（70%）に上る事や、「上賀茂試験地の認知度」についても知らなかったが15名（52%）を占める事からも推測される。

今後の課題については、詳しく知りたい参加者や自然と触れあいたい参加者にグループ分けが出来ないかと考える。しかし、求める内容や知識レベルも多様な参加者を、募集後にグループ分けする事は容易ではない。そこで、募集の段階で募集対象をグループ分けし、詳しい説明の観察会、自然とふれあう観察会と交互に開催出来ないかと考えた。また、今回の様な雨天の場合には屋外で植物等を説明しても、「解説が聞き取りづらい」、「書き取りづらい」等の意見があった。このような場合にも参加者の希望がある程度まとまっていれば、屋内でできる自然観察や座学中心のプログラムへの変更も検討に値すると考えられる。そのためには今まで以上に樹木に関する広範な知識を習得する必要があると考える。

5. 謝辞

本報告を作成するにあたり、ご指導いただいた安藤信准教授、寄元道徳助教に感謝いたします。